

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	医療法人社団 洛和会	代表者	矢野 裕典	法人・ 事業所 の特徴	同会においては市内で5番目、平成26年4月にここ竹田・住吉学区で初めて小規模多機能サービスとして設立。「地域に頼りにされる施設」をモットーに日々取り組んでおります。毎日の機能訓練の実施や定例の行事を実施し、ご利用者様に楽しんで頂けるよう取り組んでいます。
事業所名	洛和小規模多機能 サービス伏見竹田	管理者	宇野 友浩		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	1人	人	人	1人	人	3人	人	5人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	意見を出し合える環境作り。利用者の在宅での情報を密にして必要時には地域包括への相談や連絡を行う。	・職員の個々の解釈の仕方により、ばらつきがある。	・職員さんが参加されていることは分かりました。 ・意見を聴く時間が少ないので、職員の意見が十分に聞き取れていないと思われる。	・自己評価を行う際、ミーティングでの評価記入の意味を説明する。
B. 事業所のしつらえ・環境	施設の見学や、体験利用者さんに関して、対応方法を厳守して施設内部のしつらえ、環境を実感して頂く。	・しつらえに関して、環境整備を行い事故防止ができた。 ・事業所内には、不快と思われる匂いが無い。	・施設の見学や、体験利用者に関して、コロナ感染対応方法を厳守して施設内部のしつらえ、環境を実感して頂く。	・施設内の装飾品は季節に合った装飾作りに、利用者参加し作成する。玄関先の見栄えを良くする。
C. 事業所と地域のかかわり	連絡協議会などWEB機能が整ったため、連絡協議会や認知症サポーター講座などには参加し地域の役割を果たす。	・連絡協議会への参加ができていない。 ・認知症サポーター講座への参加ができていた。	・地域参加として、認知症サポーター講座に参加、ありがとうございます。	・対面による運営推進会議の再開。 ・認知症サポーター講座への参加。地域のケアマネ連絡会参加。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	在宅生活継続のため、通所や訪問援助の充実を図る。	・在宅生活が維持できるように訪問支援の組み込みができています。	・コロナ禍で取り組みが難しい面が多かったと思います。	・近隣住民対象の施設イベントを再開する。
E. 運営推進会議を活かした取組み	運営推進会議が開催できる時期には速やかに開催し地域の役割を目指す。	・対面による運営推進会議が開催できた。	・コロナ状況もわかっていき、地域との関わりも増えていくと思います。	・対面による運営推進会議の再開。 ・他事業所合同で運営推進会議を行う。
F. 事業所の防災・災害対策	非常災害訓練には、訓練の参加行ったことが無い職員が参加できるようにシフトを組み訓練を行う。	・コロナ禍により、防災訓練は利用者の参加は自粛。職員のみで実施。	・コロナ状況もわかっていき、地域との関わりも増えていくと思います。	・今年度防災計画の策定を行う。 ・地域防災訓練に参加する。